

目的

現在、COVID-19等、新興感染症の既感染者からの献血については、血液事業の安全かつ安定的な運営のため、原則実施していない。一方で、治療法が未確立な新興感染症に対しては、既感染者の回復期血漿を使用した血漿療法・血漿分画製剤（特殊免疫グロブリン製剤）に一定の有効性が示唆されている。このため、新興感染症の国内発生の際、迅速に回復者からの採血体制が確保できるよう、当該研究において、安全性・有効性等に係る最新の知見を継続的に調査し、これに基づき、回復者からの採血体制の指針を作成するとともに、医療機関、採血事業者、行政機関等の役割や協力体制の構築など、進めるべき政策の方向性を提言する。

研究の概要

(1) 新興感染症発生時の回復者からの採血体制等に係る包括的な指針の作成

- ア) 治療に有効な抗体価の測定法と適切な採血時期、安全かつ効率的な採血実施体制の構築等を検討
- イ) 採血した血液の病原体に対する抗体価を分析・評価し、適切な検査手法の選択、精度・データ管理と保管体制等を検討

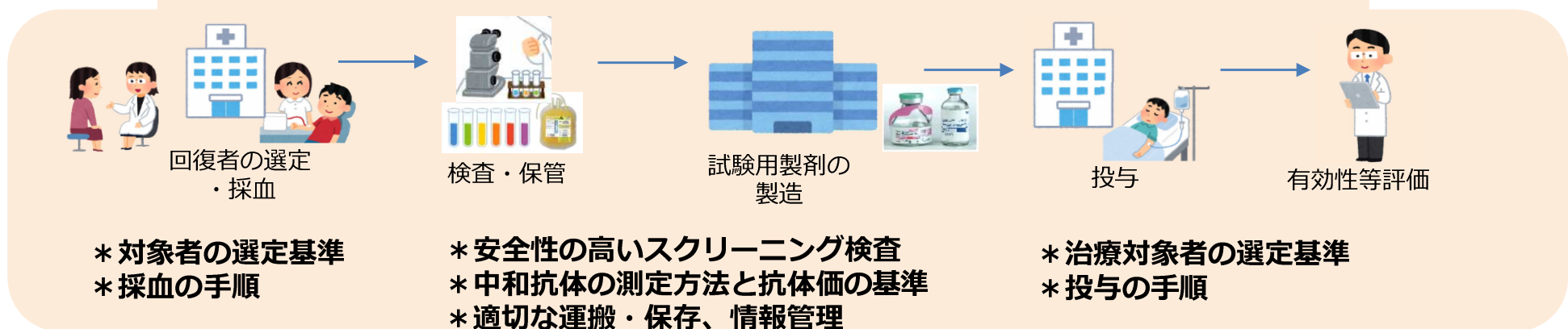
(2) 新興感染症の既感染者等の高抗体価の対象者からの採血体制等の調査・総括

新興感染症の既感染者など高抗体価の対象者からの採血体制・供血者の安全性確保等に関し海外事例の文献の収集と解析を実施

(3) 小規模COVID-19回復者血漿バンキングモデルの構築

回復者由来血漿療法を多くの医療機関での実施を推進するため、小規模な回復者血漿バンキングモデルを構築

新興感染症の回復者からの採血体制等に係る包括的な指針（イメージ）



令和2年10月から開始し、年度内を目途に結果をとりまとめ。